

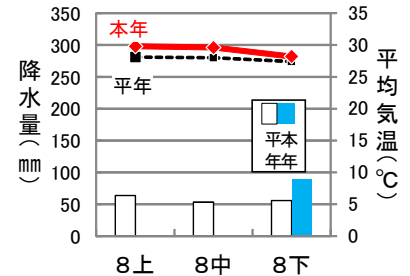


農作業一口メモ (平成28年9月号)

鳴門藍住農業支援センター
鳴門藍住地区農業生活指導班会

気象 <四国地方 1ヵ月予報(9月3日~10月2日)>

平年と同様に晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、多い確率50%です。週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3~4週目は、高い確率50%です。
(高松地方气象台 平成28年9月1日発表)



ブロッコリー <9月の管理について>



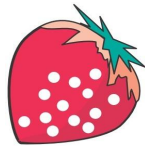
- かん水は、朝十分行き、播種後10日後から液肥等で追肥をしましょう。なお、前作にプレバソンを使用したほ場では抵抗性の発達回避のため、プレバソンの灌注はさけましょう。
- 排水性、保水性がよく、かん水可能なほ場を選びましょう。
- 根こぶ病発生ほ場では、できれば、「根こぶ耐病性品種」を選択し、「アルカリ資材の投入」や根こぶ病登録薬剤による防除に努めましょう。
- 排水対策を十分に行い、本葉4~5枚で定植し、中・晩生種でも遅くとも本葉7~8枚までに定植しましょう。

だいこん <播種と施肥について>



- 1ヶ月予報によると、気温が高いと予想されています。雨が少なければかん水を行ってください。ダイコンは塩分の影響が大きい作物なので、水の塩分濃度に注意してください。
- 台風等による大雨が降った場合は、速やかに排水するとともに中耕して通気性を良くしてください。また、降雨前後、殺菌剤の散布を行うことも重要です。

いちご <定植前後の管理>



- 育苗後半は、花芽分化促進のため徐々に植物体内の窒素濃度を下げますが、芯止まりの発生を防ぐためにも様子を見ながら、微量元素入りの液肥を施用しましょう。
- 定植前~定植後のビニール被覆までは、炭そ病、うどんこ病、ハダニ類、アザミウマ類などを徹底防除し、本ぼに持ち込まないようにしましょう。
- また、定植後2週間は少量多灌水により活着を促進しましょう。

かぶ <9月の管理について>



- 8月中旬から播種が始まりました。労力に応じて計画的に作付けし、長期連続出荷をめざしましょう。
- 土壌養水分を適切に保てるように、堆肥を施用し、深耕を行いましょう。また、大雨に備え排水溝を作っておきましょう。
- 窒素肥料が多すぎると、葉が徒長して根の肥大が遅くなったり、裂根の原因にもなりますので、適切な施肥管理を行いましょう。

8月10日~10月10日は、「秋の農作業安全運動月間」です。
農繁期をむかえ、多忙な作業の続く毎日ですが、十分な休憩と睡眠をとり、過労による事故を防ぎましょう。また、作業前・作業後の機械の点検整備を行い、計画的な作業に努めましょう。

レタス <育苗のポイントについて>



- ・気温が25℃を超えると発芽率が低下するため、発芽までは、不織布等による遮光や通風により気温の低下を図りましょう。
- ・発芽後は、不織布等はずして光に当てるとともに、培土表面が乾くようかん水し、徒長防止に努めましょう。

たまねぎ <育苗管理について>



- ・排水・日当たりの良いほ場に苗床を設置して下さい。
- ・土壌消毒を行なった場合は十分にガス抜きして下さい。
- ・播種後はワラ等で覆って乾燥を防ぎます。7～8日で発芽しますので、早めに覆いを取り除き、苗立枯病予防の農薬を散布します。
- ・本葉3枚までに株間1cmになるよう間引きし、生育に応じて液肥を散布し、締まった苗を作りましょう。

にんじん <9月の管理について>



- ・前作が終わりしだい、速やかに良質堆肥を2～4t施用しましょう。
- ・水田後の稲ワラには石灰窒素40kgを全面に施し、できるだけ早く深耕しましょう（遅くとも、播種30日前まで）。
- ・基肥は、播種10日前までに全面施用しましょう。
- ・ほ場は、できるだけ多く耕し（5～10回）、高畦としましょう。

な し <収穫後の管理について>



- ・収穫後も乾燥が続くようなら、かん水は必要です。
- ・本年度は、平年に比べてやや黒星病の発生が見られました。また、コナカイガラムシ類が産地全域で多発傾向です。これらの病害虫を来年度に持ち越さないためにも、秋防除が特に重要です。

か き <炭そ病対策を十分行いましょう>



- ・炭そ病は、気温が低下してくると感染しやすくなります。また、台風や大雨で多発するため、降雨前後はしっかりと防除しましょう。うどんこ病と同時防除がよいでしょう。
- ・カメムシ類の飛来が認められたら防除しましょう。
- ・園地を見回り、日焼け果や擦れ果などの商品性の低い果実は早めに摘果しましょう。

農薬の適正使用 <いつものチェック、忘れずに！>

- ・農薬はラベルの記載事項を守って使用することによって、農作物や食の安全が守られます。農薬ラベルに書かれている適作物、農薬の使用濃度、使用時期、使用回数等を守って散布しましょう。
- ・また、周辺圃場で作物が栽培されている場合には、散布した農薬が飛散しないように、風向・風速に注意しながら、適切な散布圧力で散布しましょう。
- ・炎天下での長時間の散布は避け、朝夕の涼しい時間に作業して下さい。

鳴門藍住農業支援センターのホームページでも掲載しています。

http://www.pref.tokushima.jp/shien/naruto_aizumi/

※提案・お問い合わせについては、鳴門藍住農業支援センターまで

電話番号：088-692-2515